



あすなろ

教育目標

自分の考えをもち みんなとともに 向上しようとする子
○かんがえる子 ○あたたかい子 ○きたえる子

学校だより 令和8年5月22日(金)

新緑の季節、響き合う「あいさつ」と「思いやり」

校庭の銀杏が鮮やかな緑の葉に覆われ、体育館の軒下では親ツバメが子育てに奔走する姿が見られるようになりました。

新年度がスタートして約1か月半。子供たちは新しい学年や先生にもすっかり慣れ、学校生活を存分に楽しんでいるようです。朝の校門では、「校長先生、おはようございます！」と、自分から元気よく挨拶をする声が響きます。

晴れた日の昼休み、グラウンドは笑顔でいっぱいです。ブランコや鉄棒に夢中になる子、下級生を優しく見守る子、遊具を譲り合う子。そんな光景の中に、仲間を大切にする「川上小のよさ」と「心の強さ」を強く感じ、とても嬉しく思います。

命を守るために、子供たちが果たす「大きな役割」(水害・土砂災害に関する命を守る訓練)

5月12日(水)、株式会社 dii の木村様を講師にお迎えし、水害・土砂災害に関する防災講座を実施しました。今回の学習のねらいは、「自分と大切な人の命を守れるようになること」です。

1. 身近な場所に潜むリスクを知る

本校のグラウンド横の山は「急傾斜地危険区域」に指定されており、がけ崩れの恐れがあります。お話や動画を通じて、いつも遊んでいる場所のすぐ隣に危険箇所があることを知り、子供たちは驚きを隠せない様子でした。

2. 「避難しよう！」その一言が大人を動かす

特に印象的だったのは、避難警戒レベルについてのお話です。木村さんは子供たちに、こう問いかけました。

「レベル4の発令時、大人はこれまでの経験から『たぶん大丈夫だろう』と判断し、すぐには避難しないかもしれません。だから、皆さんに役割があります。『避難しよう！』と大人に声をかけてください。皆さんが言えば、大人は動きます」

私たちは危機に直面しても、自分に都合よく事態を解釈してしまう(正常性バイアス)傾向があります。今回の学習は、子供たちに「避難を呼びかける」という重要な役割があることを教わると同時に、私たち大人も「子供に言われる前に、自ら命を守る行動をとらなければならない」と強く再認識する貴重な機会となりました。

笑顔と発見がはじけた！川上オリエンテーリング

15日(金)異学年で構成される「たんぼぼ班」のみんなで、待ちに待った川上オリエンテーリングに出掛けてきました。出発式では、私から子供たちに「3つの約束」を伝えました。①地域の方に自分から挨拶をしよう。②新しい発見を3つ以上見つけよう。③交通安全に十分気を付けよう。

この活動の醍醐味は、単に目的地を目指すことではありません。仲間と歩き、自分たちの足で「気付き・考え・調べる」プロセスこそが、何物にも代えがたい学びとなります。チェックポイントでお世話になった浄光寺様、いきいき市場様、五木のやかた様、かたらいの里様、川上サービス様、ご協力ありがとうございました。子供たちにとって新しい発見や川上の魅力を感じることができた貴重な活動となりました。

